

つげのたけ 都介野岳(都祁富士) 標高630m に登る

山添村からの帰路、車窓から見た山

6月下旬、健生会友の会支部の仲間たちと山添村に行った帰り、バスは名阪国道・針インターチェンジから榛原方面に向かった。そのバスの車窓から姿の美しい山が遠望できた。都祁(つげ)富士の名でも知られる都介野岳だ。ずいぶん昔に登った記憶がよみがえった。



都介野岳に登ろう

都介野岳に登ろうと思いたち、アクセスの交通手段を調べるが、電車やバスでは極めて不便。普通自動車免許を返納してから山がさらに遠くなってしまった。

考えあぐねて思いついたのが、バイクで登山口まで行くことだった。

やっとたどりついた登山口

7月11日朝7時、自宅をバイクで出発。三輪山めざして東進。R169で北に向かい、JR 桜井線を跨線橋で越えて再び東進、笠山荒神社前を通り、小夫(おうぶ)を走り抜けて大和高原白石地域に。路傍の配送会社で道を問うが、皆「地元でないからわか

らない」とのこと。やむなく針インターまで行き、十数日前のバスの行程に従って走ると、すぐに秀麗な山容が現れた。

山のふもとの田んぼで農作業中の若い人に尋ねたら、「その道が登山道です」と教えてくれた。家を出て2時間が経っていた。

涼風吹きぬける登山道

登山道入り口の道標は破損が激しく、柱に赤いテープが巻いてあるものの、教えてもらわなかったら分からなかっただろう。9:10 登山開始。人工林の中の簡易舗装道の中央には段差の低い階段が設けられている。吹き抜ける風に身を晒しながらゆっくりと昇る。ホトトギスの啼き声が響いてくる。ノギランは花を見せているが、イチヤクソウの株には花がついていない。ツルリンドウが匍匐茎(ほふくけい)を無遠慮に登山道にまで伸ばしているが、もうすぐ可愛い花を咲かせるだろう。



山頂には竜王さんが

やがて十字路に至り、ここに看板(写真右)があり、左折して階段を登っていく。9:50 山頂着。頂上手前で振り返ると樹間から白石平野が見渡せた。以前に見た時の印象とは違って、大きな倉庫や建物が増え、平野が狭くなったように感じた。

あぜ道に多かったヤブカンゾウやタムラソウ

頂上には竜王さんの社殿であろう建物があつた。往路を引き返し 10:20 登山口帰着。帰路沿道のあぜ道にはヤブカンゾウやタムラソウが目立った。

←タムラソウ(キク科タムラソウ属)よくアザミ属の花と間違われる。トゲが無い。



追悼・松尾治

右の写真は大和高田市内の土庫病院一階待合で続けられている「松尾治追悼写真展」の情景です。(写っている女性の了解済)

観た人から「すごいね」の感想をいただく事しきりです。



隅々から「戦争反対」「ロシアは撤兵を」の声を



二上山の登山道でも

ロシアのウクライナ侵攻から早くも1年半が過ぎようとしています。世界中から「ロシアは撤兵を」「戦争やめよ」の声が上がっていますが、ここ二上山の登山道の傍らでも、手製のオブジェが登山者に「ウクライナ支援」を呼びかけています。

以前のはウクライナカラーに塗られた小さなオブジェだけでしたが、今回は「ウクライナ国歌・カエル合唱団」の看板(国旗)のもとに石や木片で作られたユーモラスなカエルたちが輪をつくっています。作者に何か特別な思いがあったのでしょうか。



続・続・二上山に咲く花々 45 ヒメヤブラン (姫薺蘭)

キジカクシ科ヤブラン属

写真は故澤木仁さん

花期は7月～9月。二上山でも各所で咲いています。登山道や遊歩道の傍らにも咲き、可愛い花ですが、小さく目立たないのでつい見過ごしてしまいます。

葉は線形、高さ10～15cmの花茎を直立させ、その上に花をまばらにつけます。

ジャノヒゲ属のジャノヒゲに似ますが、花の色も違い、ジャノヒゲの実が濃紺色なのに、この種のは黒なので区別できます。

